

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点 ※外国語学部 2 教科型は 100 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
【概評】 〈現代文〉 問題文・設問形式ともに例年どおり。漢字問題以外はすべて内容説明問題であった。 〈古文〉 問題文は 2025 年同一日程と同じ出典からの出題であった。設問形式も例年どおり。傍線部はないものの、問題文自体は比較的読解しやすかった。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 池内了 『疑似科学入門』 ○行数 : 90 行	現代人の科学に対する不信感や、「お任せ」の態度が疑似科学の進行要因になっていることを論じた文章。問 3 の選択肢 d は「科学者が御用学者になること」に「科学者以外の人々」の責任があるという主旨が不適當。問 6 の選択肢 b は「道徳を科学に利用」が不適當。問 7 の選択肢 a は「自然に学ぶ道徳も見かけ上だけのものとなり」が不適當。問 8 の漢字問題はいずれも標準。 ※ (昨年度) 評論、115 行、8 問 (8)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	古文 (平安・作り物語) 作者未詳 『落窪物語』 ○行数 : 24 行	女君と少将がともに一夜を過ごしたあと、女君の継母が突然部屋を訪れる場面。問 1 は「さはれ、あけたまへ」が少将の発言であることを押さえる。問 3 は北の方の発言内容の解釈がポイント。問 6 は「げに」「かしこき」「さらに……ね」の解釈に注意する。問 9 は「人の御志やは見ゆる」が反語の用法であることを見抜くことがポイント。 ※ (昨年度) 平安・作り物語、24 行、10 問 (10)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。関西大学の問題文は通常 57 字/行 (20 行/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	8 問 (8)	8		1	7								
二	10 問 (10)	10			10								

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1 問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>問題文を丁寧に読解するだけでなく、選択肢どうしも見比べるようにしよう。漢字問題も例年出題されているので、普段から漢字の書きとりも練習しておくこと。</p> <p>〈古文〉</p> <p>単語や語句、敬意表現など基本的な事項の確認を怠らないこと。問題文を丁寧に読み、主語や目的語を補いながら読解を進めていこう。また、一つひとつの選択肢を順に確認して解くのではなく、一つの選択肢の“キズ”を見つけた際は、他の選択肢にも適応させるなどして、解答時間を短縮しよう。</p>